

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7105-00

(様式1)

業務実績書

研究所 No79

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言 ((1))		
【事業概要】 地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・修復・整備・活用などの事業に対し助言を行う。			
【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	部長 宮田繁幸
【スタッフ】 高桑いづみ、飯島 満、俵木 悟、菊池理予 (以上、無形文化遺産部)			
【主な成果】 平成 20 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して(財)伝統文化活性化国民協会への 18 件の助言をはじめとして、73 件の助言を実施した。			
【年度実績概要】 平成 20 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の助言を行った。 1 (財)伝統文化活性化国民協会への助言 18 件 2 日本ユネスコ協会連盟への助言 2 件 3 (財)日本青年館への助言 4 件 4 石川県教育委員会・輪島市教育委員会への助言 4 件 5 千葉県伝統文化伝承委員会への助言 4 件 6 日本芸術文化振興会への助言 12 件 7 日本放送協会への助言 4 件 8 文化庁伝統文化課への助言 4 件 9 社会教育実践センターへの助言 1 件 10 文化庁芸術文化課文化活動振興室への助言 20 件			
【実績値】			
【備考】			

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	助言件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、依頼を受けて行うものであり、あらかじめ個々の助言について予定することは出来ないが、本年度も各種委員会等への出席及び助言の依頼が前中期計画時の平均値以上寄せられており、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できたものとする。以上の状況を総合的に判断して、Aと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年通りの助言依頼に順調に対応できたと考える。

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7105-01

(様式 1)

業務実績書

研究所 No80

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言 (1)		
【事業概要】 地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業を援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行う。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	副センター長 川野邊 渉
【スタッフ】 中山俊介、北野信彦、早川典子、加藤雅人、森井順之、坪倉早智子 (以上、保存修復科学センター)			
【主な成果】 今年度は、件数として 30 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちが新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。			
【年度実績概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ・財団法人日本航空協会評議員 (川野邊 渉) ・有限責任中間法人国宝装演師連盟資格試験委員会 (川野邊 渉) ・石川県文化財保存修復工房運営委員会 (川野邊 渉) ・文化財建造物修理主任技術者講習会 (上級コース) (川野邊 渉、中山俊介) ・日光山輪王寺宝物殿における劣化工芸品の修復に関する指導助言 (川野邊 渉、中山俊介) ・京都市埋蔵文化財研究所に対する木製品保存処理に関する現地指導 (北野信彦) ・国宝臼杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之、早川典子、朽津信明) ・国指定史跡大分県高瀬石仏の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之) ・仙台市春日社古墳出土漆革桶の保存修復作業に関する指導助言 (北野信彦) ・東京大学埋蔵文化財調査室における出土資料の保存方法に関する指導助言 (北野信彦) ・国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言及び活用検討会出席 (川野邊 渉、北野信彦、加藤雅人、森井順之、坪倉早智子) ・特別史跡キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、北野信彦、加藤雅人、森井順之、坪倉早智子) ・重要文化財熊野麿崖仏の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之) ・佐賀県指定史跡 鶴殿石仏群の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之) ・日光市の世界遺産環境モニタリングに関する指導助言 (川野邊 渉、森井順之) ・長崎県上五島町江袋教会の焼損に関する被害調査と保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉) ・特別史跡、特別名勝醍醐寺三宝院庭園からの出土木樋の保存修復に関する現地指導 (北野信彦) ・兵庫県立考古博物館における出土漆器の保存修復に関する指導助言 (北野信彦) ・松浦市鷹島海底遺跡からの元寇関連出土資料の保存処置に関する指導助言 (北野信彦) ・東京農工大学科学博物館内の資料保存に関する指導助言 (中山俊介) ・重要文化財旧手宮鉄道施設の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、中山俊介) ・重要文化財明治丸の保存修復に関する指導助言 (中山俊介) ・重要文化財富岡製糸場内の鉄製水槽の保存修復に関する指導助言 (中山俊介) ・近代化遺産の修理等に係る指針策定に関する指導助言 (中山俊介) ・重要文化財養源院杉戸絵に付着した物質の除去に関する指導助言 (川野邊 渉、坪倉早智子) ・重要文化財 0.5 t 及び 3 t スチームハンマーの修復後モニタリングに関する指導助言 (森井順之) ・第 5 福竜丸の船体及びエンジンの保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、中山俊介) ・陸上自衛隊入間基地内修武台記念館内における航空機の保管環境に関する指導助言 (中山俊介) ・国指定名勝池田氏庭園内洋館の保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、中山俊介) ・重要文化財東京駅舎本屋のドーム内レリーフの保存修復に関する指導助言 (川野邊 渉、中山俊介) 			
【実績値】 指導助言実施件数 : 30 件			
【備考】			

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	重要文化財を含む各種文化財の保存修復に関して、それぞれの保有団体、所有者の方々あるいは修復を担当する団体に対して、指導助言を行った。またその過程において、私たちが、現地を調査する機会を得、更に知見を得ることが出来た。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度は、件数は30件と昨年よりも上回った。また、その内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちが新たな知見を得るように努力する。

【書式B】

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7105-02

(様式 1)

業務実績書

研究所 No81

中期計画の項目	7 地方公共団体等への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 ((1))		
【事業概要】 地方公共団体等が行う遺跡、建造物等の調査・整備・修復・保存等について、専門委員会委員への就任等を通して、必要な事項に関し援助・助言を行う。			
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 田辺征夫
【スタッフ】			
【主な成果】 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。地方公共団体等の委員就任件数169件、援助・助言実施件数(出張依頼を受けた件数)322件(委員会出席154、審議会出席18、指導49、調査17、講演20、その他64)			
【年度実績概要】 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。 ① 地方公共団体等による文化財建造物等の調査、修復、整備について、学術的、技術的側面からの具体的な援助・助言を現地等で行った。主なものには、調査関係として京都府近代和風建築総合調査、修復・整備関係として兵庫県史跡和田岬砲台、奈良市東大寺境内整備、奈良市特別史跡・特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園、奈良市名勝依水園庭園、京都市元離宮二条城建造物などがある。このほか、奈良県橿原市文化財審議会、奈良市文化財保護審議会、奈良県立民俗博物館運営協議会などにおいて、専門的立場からの助言等を行った。 ② 地方公共団体等による遺跡の発掘調査における調査方法や検出した遺構の性格、建物遺構の構造的特徴についての援助・助言、遺跡・名勝などの保存管理や整備事業に係る調査、価値評価、実施内容、構想・計画の立案などの援助・助言を行った。主なものには、岩手県盛岡市史跡志波城跡、宮城県東松島市赤井遺跡、福島県須賀川市史跡上人壇廃寺、茨城県水戸市台渡里廃寺跡・大串遺跡、群馬県伊勢崎市三軒屋遺跡、太田市天良七堂遺跡などがある。 ③ 地方公共団体等が発掘調査を行った全国のべ23の遺跡から出土した木簡・墨書土器、漆紙文書などの出土文字資料約350点について、その釈読・写真撮影などの調査・研究に関する援助・助言を行った。主なものには、奈良市平城京跡、京都府木津川市馬場南遺跡・北綺田遺跡群、大阪府枚方市禁野本町遺跡、兵庫県姫路市豆腐町遺跡・豊岡市祢布ヶ森遺跡、静岡県ケイセイ遺跡・鳥居松遺跡、滋賀県甲賀市宮町遺跡などがある。			
【実績値】 地方公共団体等の委員就任件数 169件 援助・助言実施件数(出張依頼を受けた件数) 322件 (委員会出席154件、審議会出席18件、指導49件、調査17件、講演20件、その他64件)			
【備考】			

【書式B】

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7105-02

(様式2)

自己点検評価調書

研究所 No81

1. 定性的評価

観点	継続性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			
備考 継続性：依頼機関への対応 適時性：実施業務に適時・適切に対応 発展性：的確な援助・助言による実施業務の順調な実現						

2. 定量的評価

観点	援助・助言実施 件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等が行う遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、援助・助言を的確に行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現在、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・復原事業や、建造物の調査、修理事業について、各担当機関から専門的な援助・助言を求められ、適時・適切に対応している。奈文研に対する社会的要求に応えるべく、今後も的確に対応する。

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上				
プロジェクト名称	地方公共団体が行う平城京城発掘調査への援助・助言 ((1))				
【事業概要】 平城宮跡の隣接地や平城京の寺院跡などの重要地区内において、近年とみに小規模開発が進んでいる。この開発に対して宮及び宮周辺における奈良時代を含む土地利用の実態把握と遺構深度などを明らかにする目的で発掘調査を実施した。					
【担当部課】	都城発掘調査部 (平城)	【プロジェクト責任者】	副所長 山崎信二		
【スタッフ】 難波洋三、和田一之輔、城倉正祥、国武貞克、西口壽生、神野恵、森川実、加藤雅士、深澤芳樹、今井晃樹、林正憲、島田敏男、大林潤、高橋知奈津、鈴木智大、渡辺晃宏、馬場基、山本崇、浅野啓介 [以上、都城発掘調査部]					
【主な成果】 20年度は、平城宮・京域で、合計12件の調査を実施した。その結果、平城京内において掘立柱建物の立て替えた状況や条坊側溝を検出した。また平城宮北部では地表から遺構面までが浅く、南部では深い傾向にあることを確かめた。					
【年度実績概要】 平城宮に密接に関連する平城京城発掘調査への援助・助言は、総数12件あり、主に開発行為に対する事前発掘調査である。発掘の総面積は434㎡、調査期間は2008年5月7日～2009年2月3日の間、延べ120日におよぶ。					
次数	調査地	調査原因	面積	期間	概要
434	平城宮東院南方	住宅建設	112㎡	080507～080616	奈良時代の5時期におよぶ重複した掘立柱建物を検出
435	法華寺旧境内	住宅建設	5.5㎡	080616・17	目立った遺構なし
439	興福寺旧境内	住宅建設	19.5㎡	080701～080811	東六坊大路西側溝の他は、埋甕など主として中近世の遺構
441	平城京右 3.1.15	住宅建設	42㎡	080818～080829	中世の土坑を検出
442	法華寺旧境内	住宅建設	101㎡	080901～080925	奈良時代の掘立柱建物4基、焼土塊を検出
443	平城京左 1.2.10	住宅建設	12㎡	080924～081001	奈良時代の柱穴2基検出
444	平城宮	住宅建設	66㎡	081006～081020	奈良時代の整地層を検出
445	平城宮	住宅建設	9㎡	081104・05	中世の土坑等を検出
447	平城宮	住宅建設	18㎡	081022～081029	中世の炉壁片等を検出
449	平城京左 1.2.9	住宅建設	28㎡	090113～090119	奈良時代の時期が重複した掘立柱建物を検出
452	平城宮	住宅建設	9㎡	090126・27	現地地表下700mで地山検出、目立った遺構なし
453	平城京西一坊大路	住宅建設	12㎡	090202・03	現地地表下1.5mで地山検出、目立った遺構なし
【実績値】 論文等1件 (論文①) 出土品 瓦磚など100箱、土器35箱、金属器・木器など10箱 記録作成数 実測図65枚、遺構写真(4×5)160枚					
【備考】 山本崇「平城宮跡東院南方(平城第434次)の調査」『奈良文化財研究所紀要2009』(予定)					

【書式B】

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7105-03

(様式2)

自己点検評価調査

研究所 No82

1. 定性的評価

観点	継続性	適時性	正確性			
判定	A	A	A			
備考 継続性：データ収集のため規模の大小にかかわらず発掘調査を継続する。 適時性：開発に対応する迅速性 正確性：文化財行政に協力する事前調査						

2. 定量的評価

観点	援助・助言 実施件数					
判定	A					
備考 対象地区の開発行為に、すべて対応した。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	緊急性を要する発掘調査に効率よく対応し、平城宮・京についての基礎資料を継続的に蓄積していることからAと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮・京の構造や変遷を検討するために有効な基礎データを得た。

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上				
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言 ((1))				
【事業概要】					
「飛鳥・藤原」地域は、わが国古代国家成立期の歴史的な舞台であり、6世紀末から8世紀初めに至る間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。					
【担当部課】		都城発掘調査部（藤原）		【プロジェクト責任者】	
				都城発掘調査部長 松村恵司	
【スタッフ】					
次山 淳、黒坂貴裕、小田裕樹、関広尚世、石田由紀子、市 大樹、豊島直博、青木 敬、箱崎和久、丹羽崇史、若杉智宏、木村理恵 [以上、都城発掘調査部]、山崎 健 [埋蔵文化財センター]、井上直夫、岡田 愛 [以上、企画調整部]					
【主な成果】					
特別史跡藤原宮跡、史跡飛鳥寺跡等において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は、7件あり、主に飛鳥寺跡等の史跡の現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、飛鳥寺伽藍周辺の調査では、瓦敷き、石組溝等古代の遺構を良好な状態で検出した。					
【年度実績概要】					
特別史跡藤原宮跡及び飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は、総数5件あり、主に史跡等の現状変更に対する事前調査である。					
次 数	調査地	調査原因	面積	調査期間	概 要
152-1	藤原宮跡	水路改修	1.8 m ²	2008.4.24	立会調査。
152-2	飛鳥寺	住宅建設	15	2008.7.15～18	発掘調査。瓦敷、石組溝検出。
152-3	飛鳥寺	住宅建設	12.8	2008.7.23～25	発掘調査。顕著な遺構なし。
152-4	藤原京跡	住宅建設	38	2008.10.1～10	発掘調査。溝等を検出。
152-5	飛鳥寺	倉庫建設	95	2008.10.28～12.2	発掘調査。石組溝等を検出。
152-8	古宮遺跡	住宅建設	56	2009.2.17～3.5	発掘調査。溝等を検出。
152-9	藤原宮跡	植栽地整備	16403	2009.3.16～	立会調査。
【実績値】					
論文等数 : 4件 (①～④)					
出土遺物 : 軒瓦4点、丸平瓦10箱、土器6箱、金属製品13点、など。					
記録作製数 : 遺構実測図15枚、写真(4×5)88枚					
【備考】					
① 次山 淳「飛鳥寺の調査－第152-2次」『奈良文化財研究所紀要2009』2009.6					
② 次山 淳「飛鳥寺の調査－第152-3次」『奈良文化財研究所紀要2009』2009.6					
③ 石田由紀子「藤原京左京三条十一坊の調査－第152-4次」『奈良文化財研究所紀要2009』2009.6					
④ 市 大樹「飛鳥寺の調査－第152-5次」『奈良文化財研究所紀要2009』2009.6					

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				
備考 適時性：開発行為に対応する迅速性、地方公共団体の文化財行政に対する協力 継続性：飛鳥藤原京地域に関する遺跡情報の収集のために、規模の大小にかかわらず調査を継続して行った。						

2. 定量的評価

観点	援助・助言数	論文等数				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年間7件の案件に対して、迅速かつ適切に対処し、地方公共団体の行う埋蔵文化財行政に対して、協力することができた。また、これらの調査を通して継続的に遺跡のデータを収集し、蓄積を図ったことから、総合的にAと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

【書式B】


施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7215-00

(様式 1)

業務実績書

研究所 No84

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	埋蔵文化財担当者研修 ((2)-①)		
【事業概要】 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者に対する研修を実施する。 研修受講者のうち平均80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と評価されるよう研修内容の充実を図る。			
【担当部課】	企画調整部、 管理部業務課	【プロジェクト責任者】	企画調整部長 小林謙一 業務課長 東 博信
【スタッフ】 小池伸彦 [企画調整部]、今西康益、石田義則、三本松俊徳 [以上、管理部] 研修内容に応じ、研究所職員の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。			
【主な成果】 遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、一般研修1課程、専門研修13課程、計14課程の研修を実施し、延べ170名が受講した。 研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。			
【年度実績概要】 一般研修1課程、専門研修13課程の計14課程を実施し、延べ170名が受講した。 また研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、100%の者から『思う』の回答を得た。			
		実施期日(日数)	定員 受講者数 満足度
一般研修	遺物観察調査課程	8月18日～9月12日(26日)	12人 12人 100%
専門研修	保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程	5月13日～5月21日(9日)	10人 6人 100%
	保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程	5月21日～5月29日(9日)	10人 9人 100%
	掘立柱建物・礎石建物遺構調査課程	6月9日～6月13日(5日)	12人 13人 100%
	文化財写真Ⅰ(基礎)課程	7月7日～7月23日(17日)	10人 9人 100%
	文化財写真Ⅱ(応用)課程	7月23日～8月6日(15日)	10人 6人 100%
	鉄製武器類調査課程	10月6日～10月10日(5日)	10人 13人 100%
	遺跡測量課程	10月20日～10月31日(12日)	12人 5人 100%
	遺跡地図情報課程	11月18日～11月21日(4日)	16人 15人 100%
	自然科学的年代決定法課程	12月1日～12月5日(5日)	12人 6人 100%
	中近世城郭調査整備課程	12月11日～12月18日(8日)	20人 29人 100%
	報告書作成課程	1月14日～1月23日(10日)	16人 23人 100%
	寺院遺跡調査課程	2月2日～2月6日(5日)	12人 16人 100%
	生物環境調査課程	2月17日～2月25日(9日)	12人 8人 100%
計14課程 実施日数139日 受講者数/定員数170人/174人 満足度100%			
【実績値】 実施課程数 14課程(一般研修1課程、専門研修13課程) 受講者数 170人(一般研修12人、専門研修158人) 受講者の満足度 100%			
			
【備考】			

中近世城郭調査整備課程講義風景

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：研修の需要・必要性、公共性、緊急性への対応 独創性：研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性 発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上 効率性：時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性						

2. 定量的評価

観点	研修実施回数	受講者数	受講者の満足度			
判定	A	A	A			
備考 実施課程数 14 課程 受講者数 170 人 受講者の満足度 80%以上						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度の埋蔵文化財担当者研修は、当初予定した課程を全て実施している。受講者は、当初予定した受講者数をほぼ満たす受講者となった。また、それら受講者に対し、アンケートをした結果、全ての受講者が、「有意義であった。」「役に立った。」と思っている回答を得ている。これらのことから、総合的に判定し、Aと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	<p>当年度は計画どおり14課程の研修を実施し、受講者数は、年度計画の174人に対し170人であった。</p> <p>研修受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』或いは『役に立った』と『思う』との回答が100%という結果であった。</p> <p>研修の実施に当たっては、各課程の企画・運営について研修企画委員会を開催し、前回実施した研修結果の分析及び研修終了者のアンケート結果を基に、カリキュラム編成に係る意見交換を行い、研修内容の充実に努めており、今後も同様に対応していきたい。</p>

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7225-00

(様式 1)

業務実績書

研究所 No85

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修 ((2)-②)		
【事業概要】			
<p>近年、全国の博物館や美術館など文化財保存施設の多くにおいて、資料保存を担当する職員が配置されているが、専門教育を受けたものは少なく、また学ぶ機会も多くはないのが現状である。当研修は、資料保存担当者に、自然科学的見地からの文化財保存に関する基礎的かつ幅広い知識や技術を講義および実習を通じて学んでいただき、その資質の向上をもって文化財の保護に資することを目的とし、開催するものである。</p>			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長 石崎武志
【スタッフ】			
佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英（保存修復科学センター）			
【主な成果】			
第 25 回保存担当学芸員研修および保存担当学芸員フォローアップ研修を実施し、どちらも高い満足度を得た。			
【年度実績概要】			
<p>昭和 59 年度の開始以来 25 目となる「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を平成 20 年 7 月 14 日から 7 月 25 日の 2 週間実施した（参加者 29 名）。前半週では主に保存環境や生物被害対策に関する講義と実習を行い、後半週では、文化財の種類ごとの劣化と修復に関する講義を中心とするカリキュラム構成で研修を行った。保存環境実習の現場実践として行う「ケーススタディ」は埼玉県立歴史と民俗の博物館で実施し、4 人ないし 3 人のグループがそれぞれ実習テーマを設定し、温湿度や害虫管理などに関して調査を行った。さらにその結果の発表と質疑応答を行った。この研修により、受講生は、資料保存に対する科学的な知識と方法論を習得した。</p> <p>また、受講経験者を対象に、最新の保存技術に関する研究成果などに関する情報提供を目的として行う「保存担当学芸員フォローアップ研修」を 6 月 2 日に実施した（参加者 65 名）。今回のフォローアップ研修では、シミュレーションによる文化財施設の温湿度解析、殺虫剤であるジクロロボスの使用についての知見、カビ対策マニュアルについての報告をそれぞれテーマとして取り上げた。これらは、保存環境についての最新の情報であるため、参加者の関心を集め、活発な質疑応答が行われた。</p>			
【実績値】			
<p>実施回数 1 回 研修受講者数 29 名 受講者の満足度 100%（アンケート回収率 97%）</p>			
【備考】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学芸員研修応募要綱 2. フォローアップ研修プログラム 			

【書式B】

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7225-00

(様式2)

自己点検評価調書

研究所 No85

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2. 定量的評価

観点	研修参加者数	参加者満足度				
判定	A	A				
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	講義実習内容に対する受講生からの評価が高く、実施後のアンケートでもほぼ全員から満足しているとの回答を得た。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	準備段階から実施まで計画通りに進行した。

【書式B】

施設名

東京文化財研究所

処理番号

7235-00

(様式 1)

業務実績書

研究所 No86

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	連携大学院教育 東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）((2)-③)		
【事業概要】			
1995（平成7）年4月より東京芸術大学大学院と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学教室は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の二講座から成っている。 各講座3名ずつの研究所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	センター長 石崎 武志
【スタッフ】			
石崎武志、佐野千絵、木川りか、川野邊渉、中山俊介、北野信彦（以上、保存修復科学センター）、鈴木規夫（所長）、松島朝秀（平成20年7月15日まで）、間瀬創（平成20年7月16日より）（東京芸術大学非常勤助教）			
【主な成果】			
次に上げる講義と演習を各教官が担当した。文化財保存学演習（木川）、保存環境計画論（佐野）、保存環境学特論（石崎、木川）、修復計画論（川野邊）、修復材料学特論（中山、北野）			
【年度実績概要】			
次に上げる講義と演習を各教官が担当した。 文化財保存学演習（木川）、保存環境計画論（佐野）、保存環境学特論（石崎、木川）、修復計画論（川野邊）、修復材料学特論（中山、北野） 保存環境学計画論では、文化財を劣化させる熱・水分・光・汚染空気・生物などが文化財の材質にどのような影響をあたえるか劣化を防ぐにはどうすれば良いか、また文化財の公開に関する法規制等の講義を行った。 保存環境学特論では、博物館展示室や収蔵庫などの室内におかれた文化財や、屋外に展示されている文化財の保存方法について、主に温湿度の制御や生物被害対策の最新の研究成果を中心に講義、実習を行った。 修復計画論では、合成樹脂の文化財への応用についてのこれまでの使用例を解説する講義と、合成樹脂を実際に用いて基礎的な実験を行い、その特性について学ぶ実習を行った。 修復材料学特論では、近代文化遺産の保存科学と文化財資料の保存修復作業およびそれに伴う各種分析等についての講義を行った。			
【実績値】			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所
自己点検評価調書

処理番号 7235-00

研究所 No86

1. 定性的評価

観点	発展性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究現場から得られる新しい情報を加えるなど、学生にとって有益で高い水準の内容の授業や演習を行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	年度当初に予定した授業・演習計画通り、事業は進捗した。

【書式B】

施設名

奈良文化財研究所

処理番号

7235-01

(様式 1)

業務実績書

研究所 No87

中期計画の項目	7 地方公共団体等への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 ((2)-③)		
【事業概要】 京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科と協定を締結、連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた次代の研究者及び技術者の育成を図る。			
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 田辺征夫
【スタッフ】 山中敏史、松村恵司、肥塚隆保、松井章（京都大学客員教授）窪寺茂、大河内隆之（京都大学客員准教授）小林謙一、渡邊晃宏（奈良女子大学客員教授）次山淳（奈良女子大学客員准教授）			
【主な成果】 京都大学大学院人間・環境学研究科において6名（遺跡調査法論、考古資料分析論、建築遺構分析論、保存科学論、環境考古学論、年輪年代学論）、奈良女子大学大学院人間文化研究科において3名（日本考古学の諸問題、歴史資料論、歴史考古学特論）が客員教授・准教授として担当。平成20年度の受入学生数は京都大学12名であった。			
【年度実績概要】 京都大学大学院人間・環境学研究科における平成20年度の実施状況については下記のとおりである。 ①山中敏史（遺跡調査法論） 各種遺跡の発掘調査や研究例の検討作業を通じて、遺跡の調査研究法を学ぶとともに、政治的・社会的環境の歴史的展開の実態を追究する方法を考究した。 ②松村恵司（考古資料分析論） 遺跡から出土する考古遺物が内包する諸属性の分析方法を学ぶとともに、歴史像復原に向けた考古資料の有効性と限界性について考究した。 ③窪寺茂（建築遺構分析論） 近世以前に建設された寺院、神社、住宅系の建築遺構に見られる建築的特質を、建築史や文化史の側面から把握し分析する方法を考究した。 ④肥塚隆保（保存科学論） 文化財資料の科学的調査、特に対象物の特殊性を考慮した非破壊分析手法とその解析手法について考究した。 ⑤松井章（環境考古学論） 考古遺跡から出土する貝殻や骨・種子などの動植物遺体の研究を通じて、人間と自然との相互作用、動植物利用の歴史、古環境の復元などについて考究した。 ⑥大河内隆之（年輪年代学論） 年輪年代学の原理と方法、学史、関連する諸学との関わり、応用事例などについて考究した。			
【実績値】 受入学生数 京都大学 修士・博士課程11名 研究生1名			
【備考】 教官研究費及び学生の教育費は連携大学が支出			

【書式B】

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7235-01

(様式2)

自己点検評価調書

研究所 No87

1. 定性的評価

観点	効率性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			
備考 効率性：研究水準の社会的評価 適時性：時代の要請 発展性：若手研究者層の充実、人材確保						

2. 定量的評価

観点	受入学生数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材の育成を順調に行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	連携大学との協定に基づき、計画的かつ継続的に実施している。